



1 学校の教育目標

自己理解・自己錬磨・自己表出

2 経営の基本方針

○かけ声・笑い声・歌声の響き合う学校

○集団が育ち、個が生きる学校

○地域と共に育ち、信頼される学校

○目指す生徒像「気づき、考え、行動する生徒」

※ 太字ゴシックは川内中学校の重点項目

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策 (○考察●改善方策)	学校関係者評価委員の評価
			教職員	生徒	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談等を通して、生徒のいじめや悩みの早期発見・早期対応、不登校解消に努めた。	3.2	3.6	3.2	○「挨拶」に関して、教師、保護者と生徒の『大変よくできている』の回答割合に大きく違いがある。 ●校内だけでなく、地域の方など校外で挨拶ができるよう指導していく。規範意識についても、社会の一員としての自覚を持たせ主体的な態度でより良い生活が送れるよう支援する。 ●毎学期行っている教育相談「ふれあいタイム」や日々の日記「あゆみ」によって生徒の心に寄り添うようにし、生徒が安心して学校生活が送れるよう取り組んでいく。	・登下校で元気よく挨拶ができる生徒が多い。 ・横断歩道で自転車を押して渡ることができており、ルールを守ることができている。 ・コロナ禍のため地域の行事などで中学生とふれあう機会が減り、不審者と間違えられるため声をかけづらい。
	基本的生活習慣の定着	基本的生活習慣が身に付くよう、指導や支援を行った。	3.3	3.6	3.1		
	生徒指導体制の充実	校内の連携を図り共通理解のもと、適切に生徒に関わる積極的な生徒指導に取り組んだ。	3.1	3.6	3.0		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	教科の特性を生かしながら、基礎・基本の定着を図る取組を継続して行った。	3.1	2.9	2.5	○コロナ禍での学校や家庭での学習に対する生徒の取り組み方に大きく差がある。また、学校行事の縮小化により体験的な活動が減少しており生徒の活動する場が減った。学校行事において例年通り実施できていないが工夫して実施することで生徒は意欲的に活動している。 ●今後、基礎基本の定着に向けて、授業や家庭での学習方法を示し、生徒の学習意欲を高めていく必要がある。3学期は、学習のまとめとして復習に力を入れ、次年度に向けて基礎的事項を定着させるようにする。 ●「進路学習」については、普段の学習や部活動、学校行事等を通して「キャリア教育」を実践する。特に生徒が「なりたい自分」や「自分の生き方」など自分自身と向き合うことで「自分のよさ」を知り、自信を持って自分の進路について考えていけるよう家庭と連携を図る。	・先生方は大変な時期であったが、一生懸命やっていた。 ・コロナ禍の中で保護者としては、一番気になる所であり注視している。保護者としては不安や焦りがあるため、評価は辛口になる。 ・授業の進度は大丈夫だったか。(4, 5月は家庭学習でしか進めることができず、各学年進路指導の時間の確保が難しかった。授業確保のため、7時間授業や夏季休業の短縮により授業時間を確保し進めている。)
	家庭学習の充実	生徒一人ひとりの実態や学年に応じた、家庭学習の充実を図るための指導・助言を行った。	3.0	2.8	2.4		
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	体験的な学習や問題解決的な学習を、積極的に授業に取り入れた。	2.9	3.1			
	進路指導の充実	進路学習指導計画にもとづいて進路学習を実施し、自己の生き方を考えさせた。	2.8	3.2	2.5		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	学び合う授業の創造	生徒の学習意欲を高めるために、学び合いの場を工夫して設定した。	2.8	3.3		○人権・同和教育では、同和教育をはじめとするさまざまな人権問題について、3年間を見通した系統的な指導計画を立てて学習している。集団での話し合い活動の中で、多様な意見を聞き、正しく理解したり、自分の思いを言葉で表現したりすることを繰り返すことで、差別を正しく知り、共に解決していきたいという意欲や、差別解消に向けて主体的に行動しようとする態度を養ってきた。 ●多くの生徒が、友達を大切にし、よりよい学校になるよう努力している。今後も、人権問題を自分事としてとらえ、差別や偏見を見逃さず「差別を許さない」生徒の育成を目指し、人権意識を高められる学習を積み重ねていく。 ●本校の生徒は、規範意識が高く、道徳的実践力があるが、自尊感情を高めていくことが本校の課題であり自分に自信を持つよう指導していく。褒める指導が効果的にできるよう研修を重ねる。特に、部活動や行事等日々の活動において、自尊心を高める活動を取り入れていきたい。 ●部活動については、コロナ禍のため、短い練習時間のなか工夫しながら活動する。 ●生徒は充実した支援を期待しており、サポートスタッフを含めた教職員全員がチームとなり生徒に寄り添い、個に応じた支援をしていくよう取り組んでいく。	・人権・同和教育など充実しておりしっかりできています。今後とも大切な教育として継続して取り組んでほしい。生徒への支援についても充実している。 ・文化祭での人権劇など生徒を中心に取組んでおり、継続して生徒への啓発を進めている。 ・道徳教育は長い時間かけてやっていくものであり、すぐに結果が出ないところでもある。 ・多種多様性について、生徒一人一人に寄り添って見ていってほしい。 ・教師と生徒との関係が良い状態である。今後も生徒の気持ちを考えて接してほしい。
	道徳教育の充実	教育活動全般を通じて、生徒の道徳性を身に付けようとする。	3.0	3.3			
	仲間づくり・集団づくり	学校生活のアンケートやhyper-QUの結果を活用して、望ましい集団づくりに努めた。	2.9	3.5			
	健康づくり・体力づくり	日々の生活の中で、健康管理や体力作りに努めるよう生徒に指導・助言を行った。	3.1	3.3	2.8		
	人権・同和教育の推進	教育活動全般を通じて、生徒に人権感覚を身に付けさせるための指導を行った。	3.1	3.6	3.1		
特別支援教育	自尊感情の高揚	生徒一人ひとりのよさに目を向け、それを称揚することによって自尊感情の高揚に努めた。	3.3	3.3		●各学級、そして特別支援学級において、生活支援員を中心に支援ができています。	
	部活動の充実	部活動の意義を生徒に理解させ、充実した部活動を展開した。	2.7	3.6	3.2		
安全・安心な教育環境の整備	特別支援教育の充実	生徒一人ひとりの実態や特性の理解に努め、生徒の状況に応じた学習指導や助言を行った。	3.3	3.3		○生徒は安全に登下校できている。 ●下校時においてはさらに指導が必要である。防災教育について、本校の取組について保護者にも知っていただけるよう心がけていきたい。特に、「グリーンかわうち」、総合的な学習(防災講座)などを通して、生徒は学校で防災について実感することができており、今後も継続した活動として取り組んでいく。	・休日の部活動に参加する際、自転車の乗り方が守られている。特に、狭い道では、徒歩通生は車がきたらよけるなどマナーが守られている。 ・地域での避難場所確認活動「グリーン川内」は、よい取組である。
	登下校の安全確保	継続した登下校指導を実施し、登下校の安全確保や、生徒の交通ルール、マナーの向上を図った。	2.6	3.8	3.3		
家庭・地域との連携	防災教育の充実	保護者や地域との連携を図り、防災に関する生徒の意識を高め、「自助から共助」への防災教育を展開した。	2.7	3.7	2.6	●年度当初より、学校から発信するHPやマチコミでのお知らせの回数を増やし、臨時休業中の生徒への支援を充実させることができた。今後、生徒、保護者と学校が繋がるよう学校の様子等の情報発信を続けたい。	・HPには情報が載せられておりありがたい。 ・HPを毎日更新しており生徒一人一人の様子がよく分かり、見やすい。
	開かれた学校づくり	「学校通信かわうち」やホームページなどにより、学校の情報を分かりやすく公開した。	3.3		3.0		
特色ある学校づくり	ボランティア活動の充実	生徒がボランティア活動への興味や意識を高めるための、工夫や支援を行った。	2.4	2.8	2.4	○生徒会を中心に、エコキャップ回収運動や夏の清掃活動に積極的に取り組んでいる。また、「友達のいいところ探し」等、新しいことに取り組み、活動を充実させていく。	・生徒がリアカーを引いてアルミ缶回収を行う姿がよかった。地域の方は楽しみにしている。
施設・設備の充実	教育機器の有効活用	教育効果を高めるために、電子黒板やタブレットPCなどの教育機器を用いた授業を行った。	3.0	3.4		○電子黒板が各教室にあり、デジタル教科書やプレゼンテーションソフトを使った授業を展開できることは、学習効果を上げる一つの要因となっている。また、ICT支援員に授業を補助してもらい、生徒の教科に対する興味・関心を高める授業ができた。	・教室の背面掲示がすばらしく、どの学級も丁寧にできている。 ・玄関やトイレの履き物がそろえられており、生徒の環境に関する意識が高くその習慣が大切であると思う。
	施設・整備の安全管理	定期的な安全点検の実施により、安全・安心な教育施設環境を確保した。	3.0	3.6		●生徒に1人1台のパソコン端末を整備する国の「GIGAスクール構想」導入に向け、ノートパソコンによる個別学習ができるよう進めていく。	